

---

# そらきみ

colors

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

そらきみ

### 【Nコード】

N8233C

### 【作者名】

colors

### 【あらすじ】

気が付けばいつも、隣には貴方がいる。そんなささいな、日常の幸せ。

白い雲が、速いスピードで空をすべる様に流れていく。

草原のど真ん中。一面、緑、緑、そして所々に咲く鮮やかな花の色。

背中に感じる草の感触。緑の匂い。時々、風が花の淡い香りも連れて。

太陽は、流れる雲に隠されたり、顔をだしたり、なんだか忙しう。

私は、そんな様子をずっと眺めている。あの雲は、風は、どこに行くのだろう。そんな事を思いながら。

雲は止まらない。どこまでも、どこまでも、流れ続けてゆく。風も、私の鼻をくすぐって、そのまま急ぎ足に過ぎてゆく。

ふと、立ち上がる。広がる緑のど真ん中。そして、空に向かって両手を伸ばす。雲に触れたくて。

両手は、宙を搔く。

分かっていた。空に手が届くはずなんてない。

私はそれが無性に切なくて、悲しくなった。でも、それと同時に、どこか嬉しくもあった。

「羽由。」

羽由。私の名前。そして、貴方の声。

振り返れば、貴方の姿。

「由真。」

由真。貴方の名前。優しい、優しい、私の大切な人。

笑ってみせれば、微笑みで返してくれる、とても温かい人。

「なにか、いいことあった？」

私に微笑んで、そして穏やかに問う。

「うっん。ただ、空が広いなって。」

「空が？」

不思議そうに首を傾げる貴方。

「そう。」

空を見上げる。手をかざす。指と指の間から漏れてくる陽が眩しくて、少し目を細めた。

「そっか。」

手はそのままに、ちらりと貴方の様子を伺えば、貴方も、空を眺めてる。

そんな、穏やかな時間。

空は近くにあるようだけど、遠くて、どんなに手を伸ばしても届かないけれど、

ここには、優しい世界があるから、寂しくなんてない。

優しく包み込んでくれる人が、ここに居るから。

そんな、幸せ。

（後書き）

初投稿です（ドキドキ

ここまで読んでくださった皆様、本当にありがとうございます！  
今日の雲の流れが速かったということから始まったこの超短編小説（と言えるのかも謎ですが……）、いかがでしたでしょうか？

よろしければ、誤字・脱字のご指摘や、評価、感想など、ご遠慮なくどんどんお寄せください。

まだまだ未熟な私ですが、何卒よろしくお願いします。

2007・10・8 鹿伽 紅梨

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8233c/>

---

そらきみ

2010年11月6日13時50分発行